

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	現代文語アラビア語におけるコンストラクト・チェーンに関する考察
Author(s)	佐藤, 道雄
Citation	ニダバ , 23 : 74 - 83
Issue Date	1994-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047975
Right	
Relation	



現代文語アラビア語における コンストラクト・チェーンに関する考察

佐藤道雄

0 はじめに

現代アラビア語の統語論的な特徴のひとつに、併置された二つ以上の名詞を後続の一つの名詞(または名詞句)が直接修飾して、更に大きな名詞句を構成するという構文が増加してきていることが挙げられる。

- (1) alladī yaṣifu-hu lba[°]du bi-nābuliyūn lyamani li-[[si[°]ati wa-ta[°]addudi]
(関係代名詞) 形容する一彼を いくらかが を以て-ナポレオン イエメンの のため - 広さ そして-数の多さ

hurūbi-hi]

戦争の一彼の

「その人を、その戦争の広さと多さのため、イエメンのナポレオンと形容する者もいる」 俣-22

名詞句の部分は次のように図式化できる。

- (7) [〈被修飾名詞_i〉 ... wa-〈被修飾名詞_n〉] 〈属格名詞(句)〉
(wa- 擬綴詞「そして」)

上記の構文においては、属格の修飾名詞は最後の被修飾名詞だけに直接後続している。これは、コンストラクト・チェーン (construct chain, 被修飾名詞とその直後の修飾名詞からなる名詞句。以下CC) の本来の構造からそれるものである。それにもかかわらず現代の文語で (Yusuf Muhammad Abdallah によると、特に新聞などで¹⁾) この構文による名詞句が多用される理由として、この構文に独自の特徴があるためと考えられる。本稿はその特徴を明らかにすることを目的とする。

同一の名詞が二つ以上の名詞を修飾する際、一つの名詞が同時に二つ以上の名詞を修飾できないという原則に従い、上記(7)の構文を回避した以下のような例が見られる。

- (2) fa-hājamat [malika ḥadramawta] wa-[jayša ḥadramawta]
そこで-(軍勢は)攻撃した 王を ハドラマウト(国名)の そして-戦を ハドラマウトの

「そこで、ハドラマウトの王とハドラマウトの軍隊を、(軍勢は)攻撃した」 俣1-271

(3) 'idā jā'a [naşru llāhi] wa-[lfathu]
 もしも 来た 助けが 神の そして-勝利が

「もしも神の助けと勝利が来たならば」 コーラン 110-1

(4) mūjazu ['ansābi lyamanīyīna] wa-[masākini-him] wa-[ba°di 'ātāri-him]
 概要 系統の イエメン人たちの そして-居住地の-彼らの そして-いくらかの 史跡の-彼らの

「イエメン人の系統とその居住地とその史跡のいくらかの概要」 史1-章1トル

(5) [[tarkīzu ttijārati] wa-[haşru-hā]] fi lmawḍi°i lmusammā ŠMR
 集中 商業の そして-制限-その における 場所 と呼ばれる (場所の名)

「ŠMRと呼ばれる場所への商業の集中とその制限」 史1-181

(2)は、同一の名詞を2回用いて、二つの名詞を別個に修飾している例である。(3)においては -lfathu は「神の勝利が」を表していると考えられるが、このように解釈する統語論的な必然性はない。(4)と(5)は、被修飾詞のうち最初のものみに修飾名詞を後置し、二番目以降の被修飾名詞には、修飾名詞を表す人称代名詞接尾形を後接する例である(ただし、(4)では被修飾要素の三番目のものは単一の名詞ではなく、更に下位のCCである。本稿で調査の対象とするのは最初の二つの要素のみである)。(4)と(5)は(7)との対照のために次のように図式化できる。

(i) [〈被修飾名詞₁〉 〈属格名詞(句)〉] ... wa-[〈被修飾名詞_n〉-〈人称代名詞接尾形〉]

本稿では(7)の構文の統語論的特徴を、一見置き換えが可能のように思われる(i)の構文と対照させつつ考察する。

1 従来の研究

1.1.1 Brockelmann は、セム系諸言語における連結態の説明の中で、「一つの属格名詞に二つの被修飾語が属するとき、本来ならば初めの被修飾語には属格名詞が直接続き、二番目は接尾辞をともなってそれに続くことになっているが、この規則はすでに時々破られている。」と述べ、アラビア語に関して以下のような例を挙げている。(表記法筆者)

bayna ['anyābi wa-maḥālībi] 'asadayni }zwischen den Zänen und den Klauen zweier Löwen<; 'anna-hu [yaşna°u-hu şun°ata wa-yuhayyi' u-hu taḥyi' ata] man lā yurīdu }daß er es tut und bereitet, wie einer der nicht will<; min ['aḥşafi wa-'aẓrafi] ḡulāmin yakūnu }einer der scharfsinnigsten und elegantesten jungen Männer<; ['alfay wa-mi'atay] sayyi' atin }2200 Sünden<; [ṭuruqu wa-'arādī] tilka lbuldāni }die Wege und Felder dieser Länder<; [ḥurūju wa-ntiqālu]

1.1.2 Reckendorf は、一つの連結態名詞の直後に属格名詞が続かねばならないので、[darbu wa-qatlu] zaydin }das Schlagen und Töten Zayds< の様な構文はできないとし、これに代わる例として、(イ)の構文による ['aydiya rijālin] wa-['arjula-hum] }Hände und Füße von Männern<; [raḥmatu llāhi] wa-[barakātu-hu] }die Barmherzigkeit und die Segnungen Gottes< を挙げている。また、これ以外に、最初の被修飾名詞の直後に修飾する属格名詞を置き、二番目の被修飾名詞は(文脈により)限定態または非限定態にして、修飾を受けていることを示さないという(3)と同様の方法を、さらに、修飾部を前置詞句にする構文を挙げている。

1.1.3 Wild は、現代標準アラビア語 (das Neuhocharabische 話し言葉も書き言葉も含む)の統語論的特徴のうちで古典アラビア語の規範を外れたものの例として、(7)の構文を挙げ、その実例として、'The Manners and Customs of the Modern Egyptian' という書名が、とあるアラビア語訳では 'ādāt wa-aḥlāq al-miṣrīyīn al-muḥdaṭīn のようになっていることを指摘し、これは古典語の文法に従えば 'ādāt al-miṣrīyīn ... wa-aḥlāqum となることを述べている(アラビア語の表記は Wild の原文のまま)。また、このような構文は古典アラビア語にも中アラビア語 (das Mittelarabische) にも見られ、アラビア語に翻訳された原語(現代標準アラビア語においてはヨーロッパ諸語)の規範の影響であると指摘している。

1.1.4 上記の考察の他、Hopkins はパピルスに書かれた西暦912年より前のアラビア語の記述に際して、(7)の構文はそのほとんどが被修飾名詞に分数を含むことを指摘し、そうではない例として WDLK LMĀ WLḤRĀJ SNT TLT WḤMSYN WMĀTY "and that is for the water and land-tax of the year two hundred and fifty-three"; DRHM WDĀNQ KĀFWR MṢĀ'ĀD "a dirham and a daniq of sublimated camphor" を挙げている。

また、Watson はサナア・アラビア語(イエメン共和国・サナア地方の方言)の記述の中で、umm w-uḥt al-ḥarīw (表記法筆者) "the mother and sister of the bride" という構文が存在することを指摘し、この構文が現代アラビア語(modern Arabic)において増加しつつあることを述べている。

1.2 上記の考察においては、Hopkins が実例を挙げて(7)の構文の存在を述べ、また、被修飾名詞の内容に言及しているが、それ以外では(7)の構文は他の構文で言い換え可能な、本来のアラビア語ではない(あるいは現代的な、あるいは古典語の規範を外れた)ものとして扱われている。以下では(イ)の構文と対照しながら、本稿末に掲載の資料を用いて、

もう少し詳しく(7)の構文の特徴を検討してみたい。

2 対象としたCCと外部の要素との関係

2.1 筆者の調査した(7)の構文によるCCは全部で144例、(i)の構文による名詞句は全部で40例である。これらは一般的な名詞と同様に、主格、属格、対格の全てで出現する。次表は、要求される格によって(7)の構文と(i)の構文が使い分けられるのではないことを示している。

名詞句全体に要求されている格

	主格	属格(名詞修飾)	属格(前置詞の後)	対格
(7)の構文の名詞句	22例	18例	89例	15例
(i)の構文の名詞句	5例	8例	17例	10例

2.2 CCは名詞の組み合わせによる名詞句であるから、単一の名詞と同様、これを修飾する様々な要素の存在が考えられる。アラビア語において名詞を修飾する要素は、人称代名詞接尾形、名詞(句)、指示詞、形容詞(句)、前置詞句、関係節であるが、このうち人称代名詞接尾形は名詞に接尾するのみであるから名詞句全体を修飾することはできない。次表によれば、(i)の構文に関しては、名詞句全体を修飾している(ように解釈される)のは前置詞句のみである。²

名詞句全体を修飾する要素

	修飾なし	指示詞	形容詞	前置詞句	関係節	不明
(7)の構文の名詞句	122例	0	1例	14例	2例	5例
(i)の構文の名詞句	36例	0	0	4例	0	--

以下、(6)は(7)の構文によるCC全体を形容詞が修飾する例、(7)は前置詞句の例、(8)は関係節の例、(9)は後置の句から修飾を受ける範囲が不明確な例である。((9)イのような構文は、併置された二番目の要素が単一の名詞であるか否かが曖昧なので、本稿の対象外とし、ここでは例を挙げるにとどめる。)

- (6) ‘an [[ḥayāti wa-‘a‘māli] rāmrānt] lfannīyati
 について 生涯 そして-作品 レンブラント(人名)の 芸術的な(形容詞)

「レンブラントの芸術的な生涯と作品について」新聞31. 7. 92

- (7) min [[‘ahammīyati wa-ša‘ni] ‘abrahata] ‘inda-hum
 から 重要性 そして-威信 アブラハ(人名)の もとで-彼ら(前置詞句)

「彼らのもとでのアブラハの重要性と威信から」史1-319

((i)の構文の例については例(4)参照)

(8) 'ammā [[qawānīnu wa-'anzīmatu] dduwali l'arabīyati ljanūbīyati] llatī
 については 法律 そして-仕組み 国家の アラブの 南の (関係代名詞)

tawaṣṣala 'ilayhā lbāḥiṭūna fī nuqūṣi hādīhi dduwali
 到達した それに 研究者たちが の中で 碑文 これらの 国家

「これらの(南アラビアの) 国家の碑文の中で研究者たちが到達した南アラビアの
 国家の法律と仕組みについては」史1-337

(9)7 bi-'ibādati [nuzumi wa-manāhiji] ddirāsati fī kullīyāti ttarbiyati
 によって-放棄 仕組みの そして-課程の 研究の における 学部 教育の

fī bilādi-nā
 における 国-我々の

「我が国での教育学部での研究の仕組みと課程の放棄によって」新聞30. 7. 92
 (二つの前置詞句 fī kullīyāti ttarbiyati と fī bilādi-nā がそれぞれ何を修飾するかが不明確)

1 mahāmma 'ulamā' i ddīni wa-mušāarakata-hum fī mukāfaḥati l'aydz
 任務 識者の 宗教の そして-参加-彼らの における 対策 エイズの

「エイズ対策における宗教者の参加とその任務」新聞27. 7. 92
 (前置詞句 fī mukāfaḥati l'aydz が何を修飾するかが不明確)

3 CC内で併置された被修飾名詞について

3.1 (7)の構文144例のうち、135例が二つの名詞の併置、6例が三つの、3例が四つの名詞の併置であった。以下(10)7 は三つの被修飾名詞の併置の例、(11)は四つの併置の例である。また、(1)の構文でも三つの要素の併置が4例見られた(例(10)1)。このことから、(7)の構文と(1)の構文とが、併置される名詞の多いか少ないかの違いによって使い分けられているのではないことがわかる。

(10)7 wa-'aḥada ṣuwaran fūtūgrāfiyatan li-[zaḥārifi wa-kitābāti wa-nuqūṣi]
 そして-彼は取った 絵を 写真の の - 装飾 そして-書かれたもの そして-彫られたもの

'ātāri ljawfi
 遺跡の ジャウフ(地名)の

「そして彼はジャウフの遺跡の装飾と書かれたものと彫られたものの写真を撮った」
 史1-146

1 'alā kayfiyati [tasjīli l'ātāri] wa-[taṣwīri-hi] wa-[rasmi-hi]
 について 方法論 記録の 遺物の そして-撮影-その そして-製図-その

「遺物の記録とその撮影とその製図の方法論について」DY27

(11) ʿabra [fayāfī wa-ʿawdiyati wa-jibāli wa-rimāli] ljazīrati
を越えて 砂漠 そして-ワディ そして-山々 そして-砂 (アラビア半)島の

「(半)島の砂漠やワディや山々や砂を越えて」 新7-36

3.2 (7)の構文のCCにおいて、併置された被修飾名詞の内容は多岐にわたるが(ただし双数形の名詞は見られなかった。このことに文法的な意義があるかどうかは判断しかねる)、文法的または意味的に何らかの共通する特徴を持ったものが併置される場合が多い。しかし、こういった共通性は(7)の構文に限ったものではなく、(イ)の構文にも見られる。併置される名詞の内容によって(7)と(イ)のどちらかの構文が選択されるというようには見えない。³

(12) ʾ tahta [ʿidārati wa-ʿiṣrāfi] lmutatawwiʿīna lhūlandiyīna
のもとで 運営(動名詞) そして-監督(動名詞) ボランティアたちの オランダの

「オランダ人ボランティアの運営と監督のもとで」 新12. 7. 92

イ kānat tuʿāliju [ʿidārata lʿarḍi] wa-[taʿjīra-hā]
だった 扱う 運営を(動名詞) 土地の そして-賃貸を(動名詞)-その

「それは土地の運営とその賃貸とを扱っていた」 史1-182

(13) ʾ hiya [ʿabrazu wa-ʿaqwā] fiʿāti lmujtamaʿi ddīnīyi
それは 最も目立つもの そして-最も強いもの 集団の 社会の 宗教的な

「それは宗教的な社会集団の最も目立ち最も強いものである」 史1-370

イ [[ʿakbara wa-aṣhara] tilka lmamāliki] wa-[ʿaḡnā-hā]
最大のもの そして-最も有名なもの それらの 王国の そして-最も富んだもの-その

「それらの王国で最大で最も有名で、その最も富んだもの」 傳-24

(14) ʾ fī [wasati wa-ṣarqi] ṣṣūmāli ljanūbīyi
における 中央 そして-東 ソマリアの 南部の

「南部ソマリアの中央と東部における」 新3. 7. 92

イ fī [ṣamāli ljazīrati lʿarabīyati] wa-[janūbi-hā]
において 北 島の アラブの そして-南-その

「アラビア半島の北とその南において」 史1-353

(15) ʾ bi-taḥdīdi zamani [[bidāyati wa-nihāyati] dawlati ʿawsāna]
で-限定 時間 始まりの そして-終わりの 国家の アウサーン(国名)の

「アウサーン国の始まりと終わりの時間の限定で」 ㊦1-197

い bi-taḥqīqi ta' rīḥi [[bidāyati ddawlati l'awsāniyati] wa-[nihāyati-hā]]
で-親 日付の 始まりの 国家の アウサーンの そして-終わりの-その

「アウサーンの国の始まりとその終わりの日の決定で」 ㊦1-201

4 構文内の後置修飾の属格名詞(または名詞句)について

(イ)の構文と対照した場合、(㊦)の構文の最も顕著な特徴は、構文中の属格名詞(句)の構成にあると筆者には思われる。調査した属格名詞には文法的な性や数のこれといった偏りや、共通する意味的特徴は見られなかった。(ただし、3.2 で述べたのと同様、ここでも双数形の名詞は見られない。)

4.1 (㊦)の構文において、併置された名詞を一つの属格名詞(句)が修飾するものが、全144例中125例、二つの属格名詞(句)が併置されて修飾するものが14例、三つの属格名詞(句)のものが4例、四つのものが1例だった⁴。これに対して、(イ)の構文では40例全てにおいて、属格名詞(句)は一つである。以下の(16)や(17)のように二つ以上の属格名詞(句)の後置修飾の例は(イ)の構文には見られない。

(16) wa-[[jumūda wa-jafāfa] [lmašā'iri wa-l'ahāsisi] ljamīlati naḥwa ṭṭifli]
そして- 硬直 そして-枯渇 感情の そして-感覚の 美しい に向かう 幼児

「幼児に向けられた美しい感情と感覚の硬直と枯渇」 欄31.7.92

(17) bi- [['intāji wa-tawfiri] [lbuḥūri wa-lmurri wa-l'utūri]]
をもって 生産すること そして-豊富にすること 香の そして-没薬の そして-香水の

「香と没薬と香水を生産し、豊富にすることをもって」 ㊦1-153

4.2 併置された名詞を修飾する属格名詞(句)の構成をさらに細かく検討してみると、次表のように(ア)と(イ)の構文間には差異がある。属格名詞句の構成要素が単一の名詞の場合⁵と、名詞とそれを修飾する要素一つの場合は両方の構文間に極端な偏りは見られないが、二つ以上の要素が名詞を修飾してしている場合では(㊦)の構文が圧倒的に多く見られる(25:1)。

構文内の個々の属格名詞句の構成

	名詞のみ	名詞と一つの修飾要素	名詞と複数の修飾要素
(㊦)の構文	66例	68例	25例
(イ)の構文	24例	15例	1例

構文内の属格名詞句が単一の名詞として現れる(㊦)の構文の例は上述 (6)(rāmbrānt)や

(11) (ljazīrati)、(イ)の構文の例は(5) (ttijārati)や(12)イ (l'arḍi)、一つの名詞とそれを修飾する要素一つとで構成される(7)の構文の例は(1) (ḥurūbi-hi 名詞と人称代名詞接尾形)や、(13)ア (fi'āti lmujtama°i ddīniyi 名詞と名詞句)、(イ)の構文の例は(13)イ (tilka lmamāliki 名詞とそれに先行する指示詞)や(15)イ (ddawlati l'awsāniyati 名詞と形容詞) などである。

一つの名詞と二つ以上の修飾要素によって属格名詞句が構成される例を以下(18)と(19)に示す。(18)ア、イにおいては、それぞれ二つの形容詞(句)が属格名詞を直接修飾している。一方(19)においては、まず形容詞 'uḥrā が ṭāqatin を修飾し、更に takūnu 以下の関係節が ṭāqatin 'uḥrā 全体を修飾している。このような重層的な修飾も二つの要素による名詞修飾の用例として数えた。

(18)ア wa- [ta°mīmu wa-tanfīdu] lḥittati l'i°lāmīyati wa-ṭṭaqāfiyati ṣṣihhīyati
 そして一般化 そして普及 計画の 情報的 そして文化的 保健の

「そして、情報的で保健文化的な計画の一般化と普及」 欄29. 7. 92

イ wa-[mumārasati lhawāyāti lmuḥtalifati lmufīdati] wa-[taṭwīri-hā]
 そして行くこと 趣味の 様々な 有益な そして発展させること-その

「そして、様々な有益な趣味を行いそれを発展させること」 欄12. 7. 92

(19) [wasā' ili wa-maṣādīri] ṭāqatin 'uḥrā takūnu 'aqalla dararan bi-lbī'ati
 手段 そして源 エネルギーの 他の になる より少ない 害において において-環境

「環境でのダメージがより少なくなる他のエネルギーの手段と源」 欄5. 7. 92

4.3 次表のように、属格名詞を修飾する要素としての前置詞句と関係節は(7)の構文にのみ見られる。また(イ)の構文では属格名詞を修飾するのは常に一つの語であり、句による修飾は見られなかった。

構文中の属格名詞を修飾する要素の種類

	修飾なし	人称代名詞接尾形	名詞(句)	指示詞	形容詞(句)	前置詞句	関係節
(7)の構文の属格名詞の修飾	47例	7例	29例(11)	2例	58例(9)	22例	11例
(イ)の構文の属格名詞の修飾	23例	1例	3例(0)	2例	12例(0)	0	0

(括弧内は、2語以上からなる句の数)

以下、(20)では名詞と前置詞句が、(21)では名詞と関係節が属格名詞句を構成しており、いずれも(7)の構文の例である。

(20) wa-min [°abrazi wa-'aqdami] lbāhiṭīna fī 'ātāri ma°īnin
 そして-から 最も顕著なもの そして-最も昔のもの 研究者たちの において 遺跡 マイン(国名)の

「そして、マイーンの遺跡の研究者のなかで最も目立ち最も昔の者の中に」 畧1-144

(21) ['anwā°u wa-kammīyatu] ssila°i llatī kănū yutājirūna fī-hā
 種類 そして-量 商品の (関係代名詞) かれらは~だった 商う で-それ

「彼らが商っていた商品の種類と量」 俣-25

4.4 以上のことから、(7)の構文による名詞句は、(1)の構文によるものよりも、属格名詞の数(かず)やその句構造の複雑さに関してより制約が少ないように筆者には思われる。これが単に統計的な傾向でないことは、(7)の構文を(1)の構文に置き換えてみることにより理解できる。例えば(16)、(19)、(21)を、それぞれ置き換えると、

(16)→ ? wa-jumūda lmašā°iri wa-'aḥāsīsi ljamīlati naḥwa ṭṭifli wa-jafāfa-hā

(19)→ wasā' ili ṭāqatin 'uḥrā takūnu 'aqalla ḡararan bi-lbī'ati wa-maṣādiri-hā

(21)→ ? 'anwā°u ssila°i llatī kănū yutājirūna fī-hā wa-kammīyatu-hā

のようになり、それぞれの最後の人称代名詞接尾形が何を示しているのかがわからなくなるか、句中の別の要素を示すことになる。すなわち二つ以上の名詞を共通して修飾する属格名詞句中の名詞の数(かず)が複数であったり、属格名詞句が複雑な構成であったりするとき、(1)の構文は用いることができない場合があることが判明した。

5 結論

以上の調査から、(1)の構文と対照した際の(7)の構文の特徴は次のようにまとめることができる。

(7)の構文は、

- a) コンストラクト・チェーン全体を形容詞や関係節で修飾できる。
- b) 二つ以上の被修飾名詞を二つ以上の属格名詞(句)で修飾できる。
- c) コンストラクト・チェーンを修飾する属格名詞自体を修飾する方法や、属各名詞全体の長さに制約がない。

本稿では名詞(または名詞句)による名詞修飾の一形式を扱った。このような、被修飾要素と修飾要素との間に文法的呼応のない修飾関係と、呼応のある修飾関係(例えば関係節や形容詞句によるもの)とではどのような統語論的な差異があるのか(もしくはないのか)といった問題も残されているが、本稿はアラビア語の歴史的変化(または地域的な差異)に関する研究の一つの視点になり得るものと思われる。

終わりに、本稿の着想のきっかけを与えて下さった、イエメン共和国考古学・古文書・博物館庁 Yusuf Muhammad Abdalla 博士に感謝する。

註

¹ サナア大学文学部 1991年度「古代南アラビア語」講義。

² 修飾を受け得る要素が二つ以上あるとき、前置詞句がどちらを修飾するかを決定する統語論的な根拠はない。このような場合、修飾関係を限定する根拠になるのは意味内容の解釈のみである。

³ ただし、li-mudarrisī wa-mudarrisāti ttānawīyāti l°āmmati 「一般高校の男性教師たちと女性教師たち (欄29. 7. 92)」のような、人を表す名詞の男性複数形とそれに対応する女性複数形の併置は、(7)の構文にしか見られない。これは構文上の問題ではなく、本来 mudarrisī 「女性のみではない教師たち」の1語で表し得るところを2語をもって表していること(これも現代語の特徴か?)と関係があるのではないかと、筆者は考えている。

⁴ °an [ḥamalāti wa-ḡazawāti] lmaliki ssabā'iyi KRB 'L WTR 「サバ王(すなわち)KRB 'L WTR の遠征と攻撃について」のような、接続詞のない属格名詞の同格的な併置も、二つの属格名詞句として数えた。

⁵ munazzamatu ṣṣihḥati l°ālamīyatu 「世界保健機構」のような固有名詞は単一の名詞とした。

本文で引用した資料

DY: Dirasat yamanīyah (「イエメン研究」, Yemen Center for Studies and Researches 発行季刊学術誌), Ṣan°ā'

イ碑: Bafaqih, M. A. "mūjazu tārīḥi lyamani qabla l'islāmi", in (? ed.), muḥtārātun mina nnuqūṣi lyamanīyati lqadīmati, Tunis, 1985 (「古代イエメン碑文選集」より「イスラム以前のイエメン史概要」)

幸ア: Bafaqih, M. A. fi l°arabīyati ssa°īdati, Ṣan°ā', 1987 (「幸福のアラビアにて」)

史1: Muḥammad Yaḥyā alḤaddād, attārīḥu l°āmmu lilyamani - aljuz' u l'awwalu (「イエメン通史・第一部」), Beirut, 1982

新聞: Al-Thawra (Al-Thawra 新聞社発行日刊紙), Ṣan°ā'

参考文献

Brockelmann, C. ' Grundriß der vergleichenden Grammatik der semitischen Sprachen', Berlin, 1908-13 (reprinted Hildesheim, 1982)

Hopkins, S. ' Studies in the Grammar of Early Arabic - Based upon papyri datable to before A. H. 300/A. D. 912', Oxford, 1984

Reckendorf, H. ' Arabische Syntax', Heidelberg, 1921 (reprint Heidelberg, 1977)

Watson, J. C. E. ' A Syntax of San°ani Arabic', Wiesbaden, 1993

Wild, S. "Die arabische Schriftsprache der Gegenwart" in Fischer (ed.) ' Grundriß der Arabischen Philologie', Band I, Wiesbaden, 1982